



# TSUBOTA JUKU

「塾生の人生を応援する」  
そんなコンセプトで贈る塾通信

## ★今月のトピックス★

「過去問を解き始めるみなさんへ」

「受験という戦いを制するための必勝戦略とは！」

皆さんこんにちは！坪田塾です。

体育祭や文化祭など学校行事もあり、  
すっかり秋が深まってきた今日この頃。

皆さん元気にお過ごしでしょうか？

さて、今月のトピックスは2部構成です！  
ぜひ、ご一読ください！



## ● 10月の坪田塾カレンダー ●

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	11/1	11/2	11/3	11/4



坪田塾  
TSUBOTA JUKU

## 過去問を解き始めるみなさんへ

こんにちは！坪田塾星ヶ丘校校長の岡村です。

10月に入り、あの猛暑が嘘のように感じています。

気温差が激しいので風邪に気をつけていきましょう！

そろそろインフルエンザの予防注射が始まる病院もあるようですので、  
これからのシーズンに備えて接種を心がけてください。

さてさて、この時期、毎年のことのように聞かれる質問の一つに

### 「過去問やって、なにか意味あるんですか??」

というものがあります。

毎年、当たり前のように過去問をカリキュラムに入れている私たちからすると

「何という愚問を！笑」と思うわけですが、

一方でその目的を再確認するためのチャンスをみなさんからもらった、というところもあります。

そもそもこの質問はどうして出るのでしょうか？

それには前提として、「**同じ問題って出ないじゃん**」

というような考え方があると思うのです。

そんな人に一つ、紹介したい制度があります。

『**入試過去問題活用宣言**』というものです。

<http://www.nyushikakomon.jp/sengen.html>（こちらがホームページです）

大学側は毎年毎年、入試の問題を作ります。

まず、この事実ってすごくないですか？

あんなに難しい問題を毎年作るわけですが、しかもちゃんと答えが出る形で。

例えば数学の問題なんかは、数字を一つ変えただけで答えがおかしな形になったり、あるいは求められないようなものになったりもします。

理科なんかもそうです。条件を少し変えるだけで答えが複数出かねない。だから時々、出題ミスというような問題が出てきます。

国公立大学の最高峰の一つである京都大学や大阪大学の出題ミスは有名な話です。そういうチェックを細かく大学の人がやりながら、受験に向けて準備をしていくのだらうと思います。

つまり、

**「入試の問題を作るのに、お金も時間もコストがたくさん発生している」**  
ということです。

そこで、この宣言に書いてあるのは、

**「他の大学が作った良い問題を、いろいろな大学の中で共有していこうよ」**  
というものです。

この動きが出るまでは、他の大学の問題を流用するのは重大なルール違反だ、  
というような通念があったようです。

実際に去年の入試では、こちらのように入試問題の流用がありました。

[http://www.nyushikakomon.jp/riyo\\_h30.pdf](http://www.nyushikakomon.jp/riyo_h30.pdf)

例えば、名古屋市立大学医学部が、  
平成 25 年度：お茶の水女子大学の物理の問題を改変して使ったり、  
昭和大学の薬学部は 2010 年度：名古屋市立大学の英語の問題を改変してつかったり、ということ。

龍谷大学の前額部入試では、

2016 年度の龍谷大学の英語の入試問題を改変して使ったそうです。

自分の大学の問題を改変して使う、ということは、  
過去問対策をしておくことで「あ、この問題って見たことあるし！」となるわけです。

もちろん、大学の出題傾向を知ったり、実際に解くことで自分の弱点を知ったり、  
何を対策したら良いかを把握したりと、様々な側面があります。

受験生の皆さんには、過去問を解く目的を明確に持ってもらい  
(何のために自分がその問題を解いているか)、  
解いたあとは必ず分析をすること(分析の詳しい話は各教室の先生たちから聞いてくださいね)、  
そして解き直しをしたときには満点を取れるような状態にしていくことが大事です。

過去問には受験に成功するためのヒントがたくさん隠されています。  
同じような問題を使います、という宣言をしている大学があるならなおさらですね。

一つ一つの問題に真剣に向き合い、最初は解けないかもしれませんが、  
解けるようになるためには何が必要かを分析して、力を伸ばしていきましょう。

それが合格への道になります。

# 受験という戦いを制するための必勝戦略とは！

こんにちは！本郷三丁目校の末吉です。

今日は受験と言う戦いを制するための必勝戦略について説明したいと思います！

まずはそもそも「戦略」って何やねん！

というところから始めてみましょう。

「戦略」とは、漢字の通り、「戦いを略す」という意味です。

目標を達成するために、できるだけ戦わずに済む方法、つまり「楽な方法」を探そう！

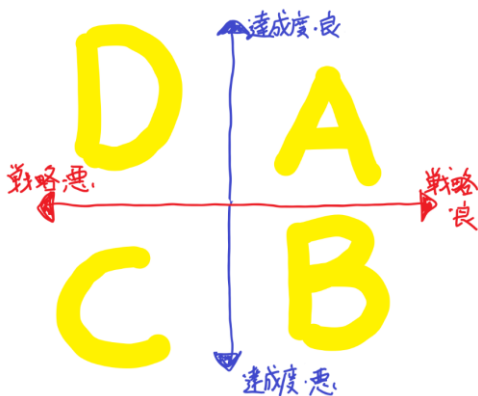
というのが「戦略」なんですね。

そして次に大事なのが「達成度」ですね。

良い戦略を立てられても、「達成度」が低いなら目標には届かないわけです。

さてここで、問題です。

次の図を見てください。



右上のAは【戦略が良くて、達成度も良い】ということを示しています。

右下のBは【戦略は良いけど、達成度が悪い】ということを示しています。

左下のCは【戦略が悪く、達成度も悪い】ということを示しています。

左上のDは【戦略は悪いけど、達成度は良い】ということを示しています。

**問題** A・B・C・Dを、良い順に並べると、どのような順番になるでしょうか？

どうですか？考えがまとまってきましたか？

皆さんの答えを予言しましょう！

「A→B→D→C」

か、

「A→D→B→C」

のどちらかだと思いますが、

残念ながらどちらも外れなんです…

正解は

「A→B→C→D」なんですね。

納得いかない人もいるかと思うので、説明していきますね！

今回の ABCD をそれぞれ具体的なシチュエーションに置き換えていきたいと思います。

目的は「東京から沖縄に行くこと」です。

「戦略」に当てはまるのは、「進むべき方向」です。

地図などで良く調べて、沖縄の方向を正しく知ることが最も重要です。

「戦略が良い」場合は、沖縄の方向に進みます。

「戦略が悪い」場合は、北海道の方向に進みます。

次に「達成度」に当てはまるのは、徒歩か、自転車か、自動車か、飛行機か、

「具体的な方法を使ってどこまで近づけたか」が達成度です。

「達成度が良い」場合は、飛行機で一気に近づきます。

「達成度が悪い」場合は、徒歩で沖縄を目指します。

改めて ABCD を考えていきましょう。

A は「沖縄に向かって飛行機で行く」

B は「沖縄に向かって徒歩で行く」

C は「北海道に向かって徒歩で行く」

D は「北海道に向かって飛行機で行く」

と言う風になるわけですね。

こうしてみると、並べ替えは簡単ですよ。

北海道に飛行機で向かったら、挽回するのは大変です。

でも、徒歩で北海道なら、すぐに戻れますからね。

なので、答えは A→B→C→D の順番になるわけです。

さて、受験で言うところの「**戦略**」は「**坪田塾のカリキュラム**」になります。

何千人ものデータと経験を元に、子別に対応できるように作り上げた「**戦略**」です。

なので、受験における必勝戦略は、このカリキュラムをいかに正しく、

早く達成するかが鍵になるわけなんですよ。

学校の成績が気になることも気持ちとしては非常によく分かります。

ただ、受験が目標なのに、学校の成績の方向に向かって努力してしまうと、

上の図で言う「悪い戦略」になってしまう可能性があります。

楽に志望校に合格したいのであれば、「**戦略的**」に戦っていきましょう！

それでは！